

鳥取県の宇宙産業創出に向けたロードマップ

～県内企業／宇宙有識者／県民との意見交換・調査結果より～

令和5年6月 鳥取県産業未来創造課

★宇宙産業の特徴

成長産業

- ・年率6%程度の成長が見込まれている。

まだ確立されていない

- ・政府から民間企業が牽引する時代に入り、参入の余地が十分にある。

宇宙には国境が無い

- ・国をまたぐビジネスを想定する必要がある。

応用や派生の領域が広い

- ・地球の課題への技術転用などビジネス展開の余地がある。

★鳥取県の強み

コンパクト

- ・産学官、及び市街地と自然の距離が近い。

鳥取砂丘

- ・月面探査の実証フィールドとなり得る様々な特色を持つ。

人材の集積

- ・人材が集まったり繋がったりしやすい規模感である。

2つの空港

- ・空港が2つありスペースポートとしての可能性を模索できる。

鳥取県の宇宙産業創出の方向性(2030年の姿)

衛星データ
活用産業

自然環境や市街地を対象に多様な先進事例を積み上げ、全国から参照・注目される地域へ

探査・資源
開発産業

鳥取砂丘月面化プロジェクトにより日本を代表する月面関連拠点へ

周辺産業への波及

観光、エンタメ、食など様々な分野に波及。宇宙技術を地球の課題解決に応用するビジネスも多数

鳥取県の宇宙産業創出に向けたロードマップの参考情報

～県内企業／宇宙有識者／県民との意見交換・調査結果からの抜粋～

宇宙産業創出に向けて鳥取県が活かすべき強み

- ◆コンパクト
 - ・産学官の連携というネットワークの観点とフィールドと町が近いという地理的な観点、2つのコンパクトさが有用に働く
 - ・宇宙産業分野は法規制や政策などの官が主体を持つ部分と、人材育成といった学が主体になる領域、そして産業が絡み合うため、これらがコンパクトにまとまっていて連携できることが大きな強みとなりうる
 - ・また、衛星データ活用の点からは自然地形や農業地形などと町が近く、地上計測データの統合が行いやすい点も有利になる
- ◆鳥取砂丘
 - ・探査・資源開発における月面の実証フィールド(特に建築やモビリティを対象とした)として大きな存在感を作ることができる
 - ・非常に詳細なリファレンスデータの存在に加えて実証フィールドとしての整備を進めることで月面探査において一番最初に名前があがる土地にすることも可能と思われる
 - ・エンターテイメントとしての展開も広く考えられる
- ◆人材の集積
 - ・大学等との連携による人材育成や育成された人材の集積・ネットワーキングを物理的に行いやすい点が強みになり得る
 - ・特に衛星データ活用などの地上応用については、ネットワーキングを通じたセレンディピティが必要な場面も多いと思われるため、コンパクトさを生かした集積が重要になる
- ◆2つの空港
 - ・鳥取、米子と2つの空港を持ち、スペースポートとしての可能性を模索できる
 - ・なお、スペースポートは、試験や実験施設として利用することから始めることもできる

宇宙産業創出の方向性

- ◆衛星データ活用産業:鳥取県全域のリファレンスフィールド化
 - ・鳥取県全域において、地球観測データの利用を県内企業全体が意識的に実行することで、先進事例をたくさん積み上げてリファレンスフィールドとしての知名度や基盤を作り上げていく
 - ・課題とのつなぎ込み、衛星データ解析、活用サービスの構築、世界展開の支援などエコシステムを構築する代表的なプレイヤーを創出していくことで、鳥取県地域全体として真似の難しい強みを作り上げる
- ◆探査・資源開発(月面基地関連)産業:鳥取砂丘の月面化
 - ・鳥取砂丘で月面実証フィールドを構築し、大企業の研究開発部門などの誘致と県内企業とのネットワーキングを進め、産業構造を作り上げる
 - ・県内の研究機関も巻き込む/外部から誘致することで、最先端のフィールドである月面に対して産学連携を加速させる
- ◆周辺産業:波及効果、ハードルの引き下げ
 - ・観光、エンタメ、食など宇宙で使う、宇宙で食べるといった宇宙そのものを産業の対象にするだけでなく、地上での利活用、例えば月面用のタイヤが地球の荒地でも使える、といった波及を見据えた産業展開を前提とする
 - ・単体では事業として成立しなくともブランディング観点からの展開ができれば、宇宙産業への敷居が下がり人材確保などにも繋がる